



# 山王小だより

男子 215 名 女子 223 名 合計 438 名

平成 30 年 6 月 1 日 No. 3

狭山市立山王小学校

〒350-1316

狭山市南入曽 55 番地

Tel 04-2957-4857

Fax 04-2957-4864

## 晴れと雨 優しさと厳しさ

6 月に入りました。梅雨の季節です。しかし、雨がたくさん降る時季なのになぜ、「水無月」というのでしょうか。文法的には「無」は「の」にあたる連体助詞ということで、「水無月」は『水の月』ということなのだそうです。田植えが済み、田に水を張る必要があることから『水の月』→「水無月」と呼ばれるようになったようです。退勤時に通る奥富の水田は、ちょうど田植えが終わったばかりで、まさに「水無月」です。

私は正直、雨の季節は好きではありませんが、植物を育てるうえで水はなくてはならないものです。もちろん日光も必要で、どちらもちょうどいいバランスで繰り返されるために植物は順調に成長できるのです。もし、雨ばかり降っていれば、根が腐って病気になるし、晴ればかり続けば水分がなくなって枯れてしまいます。

植物にとっての「晴れ」と「雨」の関係と同じように、子供の成長にとっても「やさしさ」と「きびしさ」が必要です。

私は子供たちの良さを認め・励まし・伸ばす教育を進めていこうと思っていますが、時には叱る場面にも遭遇します。例えば、命にかかわること・人権にかかわること・自分の成長にかかわること等について、子供たちが失敗したり、怠けてしまったりする場面です。こうしたとき、大人はしっかり叱るべきだと思います。そして、しっかり叱った後になぜ、そうしたのかを説明しなければならぬと思います。失敗したことを叱るのではなく、次に同じ失敗を繰り返さないように叱るためです。

明治大学の諸富祥彦教授は、叱る時の注意点として以下の点を挙げています。

- [1] 大声を張り上げない
- [2] 感情的にならない
- [3] 理由を言わずに叱らない
- [4] 大勢の前で叱らない
- [5] 時間が経ってから叱らない

子供たちは、叱られたり、褒められたりすることによって、的確に判断できる人に成長していくのだと思います。



リコーダー講習会

(3 年生にリコーダーを教える 6 年生)